

半田病院と常滑市民病院の経営統合に関する説明会

会議録概要

◆半田会場

- (日 時) 令和3年3月20日(土) 午後2時～午後3時10分
- (参加者) 事前申込制 46名(新型コロナウイルス感染対策のため、座席を指定)
- (場 所) アイプラザ半田 講堂
- (出席者)
- (半田市) 榑原純夫市長、大山仁志建設部長
 - (半田病院) 石田義博院長、渡邊和彦副院長、竹内甲司事務局長
坂元照幸管理課長、青木賢治管理課主幹
 - (常滑市) 伊藤辰矢市長、澤田忠明総務部長
 - (常滑市民病院) 深田伸二院長、小羽正昭事務局長、山本秀明副管理者
成田晃久管理課長

◆説明内容(両会場共通)(別紙パワーポイント資料のとおり)

- ・ 経営統合について
- ・ 診療統合について
- ・ 新半田病院の概要について

◆質疑応答 要旨

【経営統合について】

質問	回答
1 法人が同じような2つの総合病院を持つのは無駄ではないか。	<p>地域医療のあり方として、色々な病院が機能分担し、地域全体で適切な医療を提供する方向性になっており、両病院を統合して包括的に機能を担う方が適切と考えている。</p> <p>規模や機能の異なる2つの病院を持つことは、機動的に病床を転換したり人員の配置を変えたりすることができる点で、強みにすらなると考えられる。</p>
両病院の統合方法として、地方独立行政法人化をするということであったが、地方公営企業法の全部適用は検討したのか。	<p>全部適用も含め、色々な形態のメリット・デメリットを比較検討した結果、地方独立行政法人が最適であるとの結論に至った。</p>
地方独立行政法人化の成功事例として、山形県酒田市の日本海総合病院を挙げられていたが、どのような形で成功しているのか、もう少し説明してほしい。	<p>数年前に、山形県・酒田市病院機構の理事長からは、経営面もかなり改善され、行政が負担をするお金も少なくて済むようになった。また、人員配置なども病院間で効率的に対応できるようになった、と聞いた。</p>

【新半田病院について】

質問	回答
新半田病院の新型コロナウイルス感染症対応で、一般病床で重症まで受け持つのか。あるいは、重症は常滑市民病院が受け持つという分担をするのか。	<p>新型コロナウイルスの重症患者は、常滑市民病院で対応するのが基本であるが、新半田病院の高機能病床でも、対応可能な設備は整える。</p>
現半田病院の外来診療の待合室は、混雑しているが、新病院ではそのようなことはないか。	<p>ものすごく広い待合室を設置するというわけではないが、呼出しシステムの導入などで、待合室で待ち続けなくてもよい仕組みを検討している。</p>
現半田病院は、立体駐車場から病院まで雨に濡れずに入れるが、新病院でも、体の不自由な方のために同様の配慮をしてほしい。	<p>新病院では、雨に濡れないで入れるように、正面玄関前に大屋根を設置し、地下に約100台の駐車場を確保しており、そのうちの20台を思いやり駐車場とする計画である。</p>